

2025年度（令和7年度）

事業報告書

社会福祉法人 星谷会

社会福祉法人星谷会 2025年度事業報告

= 目 次 =

社会福祉法人星谷会 事業報告	2
星谷学園・星谷デイさくら 事業報告	10
計画相談支援事業所ほしや 事業報告	15
あまいろ 事業報告	16
地域活動支援センター結夢 事業報告	19
結夢+ 事業報告	21
SELPビナ 事業報告	23
海老名市障害者第一デイサービスセンター 事業報告	28
海老名市障害者第二デイサービスセンター 事業報告	32
海老名市障害者支援センターあきば 事業報告	36
グループホーム事業報告 (みずき・しおん・とんぼ・かぶとむし・はなきりん・てんとうむし・ほたる)	39
ホームいこい事業報告	41
生活支援センターステップ事業報告	43

2025年度 社会福祉法人星谷会事業報告

1. 2025年度社会福祉法人星谷会事業の重点目標実施状況

- (1) 利用者主体の支援「権利擁護・身体拘束、虐待防止・意思決定支援」の取り組み。
 - ・身体拘束防止の取り組み：毎月実施する管理者会議内にいて同委員会を開催。各事業所からの事案について検討した。
 - ・虐待防止の取り組み：市基幹相談支援センター開催の虐待防止研修会を実施。虐待防止に努めた。
 - ・権利擁護の取り組み：今年度も人権委員会で人権チェックリストを全職員に配布し利用者の権利擁護に努めた。
- (2) 第三期中期計画「do star plan」の実施。
 - ① 人財の育成・活用
 - ・新卒者等にあたり、奨学金補助の規程を設けた
 - ・給与規程を改正し、各種諸手当の増額を実施した。
 - ・国事業の処遇改善について、全職員を対象に支給した。
 - ② 経営基盤の安定
 - ・四半期ごとの予算執行状況を確認し、経営状況を把握した。
 - ③ 新規事業等の検討及び実施
 - ・共同生活援助事業・生活介護事業開始に向けた検討を実施した。法人事業開設30周年＋1の記念事業にあたり次のプロジェクトチームを編成し実施に当たった。
 - ・法人ロゴPT・シン法人理念検討PT・記念誌・記念式典PT・人材育成PT
 - ・2026年3月20に関係者・利用者・職員・家族等100人が参加した記念式典を実施した。
- (3) 2026年2月26日に共同生活援助事業及び障害者支援施設における「地域連携推進会議」を実施した。

2. 2025年度の主な事業内容

【事業所の運営】

- (1) 星谷学園、星谷デイさくら、SELPビナ、あまいろの運営
- (2) グループホームみずき及びはなきりん・ホームいこいの運営（10住居）
- (3) 計画相談支援事業所ほしやの運営
- (4) 生活支援センターステップの移動支援・レスパイトサービスの運営

【指定管理制度による事業】

- (1) 海老名市障害者第一・第二デイサービスセンターの運営
- (2) 海老名市障害者支援センターあきばの運営

【委託による事業】

- (1) 地域活動支援センター事業及び相談支援事業の実施（結夢の運営）

- (2) 結夢+の運営
- (3) 海老名市自立支援協議会の運営（事務局）
- (4) 海老名市基幹相談支援センターとアドバイザー契約

【法人運営・財務】

- (1) 学園積み立て 第一、第二、あきば人件費の積立
- (2) 不動産の基本財産算入と定款変更

【施設・設備整備など】

- ・門沢橋に土地の購入

【その他の事業】

- (1) 地域貢献事業：お米一合運動を実施。神奈川フードバンク及び海老名市と連携をとる。
- (2) キラ星コレクション」海老名市役所ロビーにて開催。(9月29日～)
- (2) 地域生活サポート事業
 - ①地域防災拠点事業 防災備品の整備等
 - ②地域交流等支援事業 かつぱ堂（農福連携野菜の無人販売棚、地域収穫体験）
- (3) 製品販売やショップを通じた交流事業
 - ①イベント開催：えびなこの街で暮らそう
 - ②実習生・ボランティア受け入れ

4. 職員配置(2026年3月31日現在)

事業所	本部	星谷学園	デイさくら	あまいろ	SELP ビナ	相談ほしや	結夢	結夢+
常 勤	0	28	5	3	6		5	3
非常勤	2	17	9	4	4		2	1
計	2	45	14	8	10		7	4

事業所	レインボー	かつぱ堂	あきば	みずき	はなきりん	いこい	センターステップ	計
常 勤	8	6	14	4	3	1	(兼務1)	84
非常勤	6	7	24	18	17	25	3(兼務1)	138
計	14	13	38	22	20	26	3	222

※（非常勤は派遣含む・兼務者は未算入）

4. 2025年度神奈川県法定研修受講状況

(1) 神奈川県サービス管理責任者等研修

研修名	受講者	備考
県サービス管理責任者等研修	基礎研修（武井：デイさくら）更新研修（河原：結夢）	

(2) 神奈川県相談支援従事者研修

研修名	受講者	備考
県相談支援従事者研修	初任者研修 現任研修（河原：結夢）	KCN

5. 法人委員会の活動状況

(1) 研修委員会

階層別研修

研修名	対象者	テーマ・内 容	講師	実施時期	会場
初任者研修	勤務4年未満 参加者数 17名	「記録について」 支援記録についての基本内容の講義と演習により記録について理解する。	河原雄一氏 (社会福祉法人星谷会理事長)	7月30日 (水) 17:30～ 18:45	星谷学園3階 ボランティア室
課長職員研修	管理職員 主任職員 参加者 20名	「魅力ある職場づくり～夢あるところに人は集まる」 講義・演習にて魅力ある職場、働きがいのある職場等について又必要な取り組みについて理解する。又今後の取り組みへ繋いでいくきっかけとする。	田島誠一氏 (特定非営利法人東京YWCAヒューマンサービスサポートセンター代表理事)	1月9日 (火) 18:00～ 20:30	海老名市文化会館 351
主任&管理者研修	新主任者 新管理者 参加者 2名	「主任&管理者研修」 1回目 法人の主任職、管理職についての職務、職位、役割等を講義と演習により理解を図る。	河原雄一氏 (星谷会理事長)	11月19日 (水) 17:30～ 19:00	わかば会館

内容別研修（課題別研修）

研修名	対象者	テーマ・内 容	講 師	実施時期	会場
課題別研修	全職員 参加 36名	「成年後見制度」 障がい者の権利擁護を担う成年後見や社協のあんしんセンターの制度を学ぶ	本田綾子氏 氏 (海老名市社会福祉協議会 えびな成年後見・総合相談センター)	12月19日 (金) 18:00～ 19:30	海老名市文化会館 351

その他の研修

- ・新採用職員研修：2026年4月採用職員の採用前研修（3/26、3/27、3/28）

(2) 人権委員会

今年度は、昨年度作成した「簡易版人権擁護チェック表」の見直しを行い、チェック項目ごとに注釈を入れることで、より誰もが理解しやすい形に更新している。人権チェックについては、以前から使用している「あおぞらプランⅢ」を踏襲して作成している「人権擁護チェック表」と「簡易版人権擁護チェック表」を活用し、年2回実施した。

年度当初、「簡易版人権チェック表」については、年2回実施する予定であったが、更新版の作成に時間を要したことで、年1回の実施となってしまった。次年度は、実施月を予め決めて、実施する予定となっている。

虐待防止研修については、海老名市基幹相談支援センターが配信していた神奈川県立保健福祉大学 岸川 学先生による「障がい者虐待防止研修」を各事業所で受講している。身体拘束に関する研修については、シエンシー（障がい者福祉施設向けオンライン研修ソフト）を活用して、身体拘束及びスピーチロックについて、各事業所で WEB 研修を実施した。

身体拘束適正化委員会については、年度末に身体拘束に関する同意書を頂いている方について、身体拘束の現状報告と、解除の見通しについて、確認している。現状では、あきば支援センターに 1 名、星谷学園に 3 名の方が引き続き身体拘束が必要な状態を確認している。

虐待防止委員会については、虐待及びグレイゾーンと思われる支援について、各事業所で話し合っていたき、話し合った内容を虐待防止委員会にて確認した。

(3) 採用チーム委員会

チームの取り組みとしては引き続き仲介業者を介入し、新卒学生との説明会の実施を継続して行った。また、SMS (LINE) を活用し、先輩職員との説明会を実施した。先輩職員も 20 代の方中心に学生さんが話しやすい工夫をしていきました。

学生との繋がりとして動画配信業者と契約し、星谷会の紹介ビデオの作成、学生へのライブ配信、広告運用などを行った。作成した動画については合同就職説明会などで活用し支援員の声が身近に感じやすいものとして紹介できるものとなり今後も活用できるものとして仕上がった

中途採用に関しては前回に引き続き合同就職説明会への参加、また各種イベントへ積極的に参加した。常勤以外での雇用となったが実際に就職に繋がったケースがあった。合同就職説明会では星谷会のブースの集まりが今年度は多い印象でした。

上記の取り組みをした中で結果として新卒で常勤採用 1 名と厳しい状況で、中途常勤採用に関しては 4 名となり前回の 2 倍となりました。

(4) 定着支援チーム

法人の職員定着率を高めるための取り組みとして「横のつながり・交流」について、具体的な企画を立案して又新入職者に対して計 3 回の新人定着研修を開催した。中堅職員（1 年以上 8 年未満）を対象にした事業所の枠を越えた職員間の交流を図り、共に支え合っていく関係構築を目指した職員交流会「みんなでつくろう☆ほしやネット」を前年度に引き 7/23（水）、1/28（水）2 回開催を予定していたが感染症のクラスター発生により 7/23 1 回のみの開催となった。

2025 年新人定着研修

実施日	内容	ねらい	会場
5/26 日（月）	自己紹介&座談会 新入職メンバー、定着チームメンバーの自己紹介、悩みや困りごとを聞きアドバイスする。	新入職メンバー、チームメンバーとの交流を図る。 振り返り、分かち合い	星谷学園 会議室

7/15 日（火）	研修会&振り返り 行動指針&虐待についての講義、ワークを実施する。	星谷会行動指針、虐待についての講義・演習を行い法人職員としての必要な知識を理解する。	星谷学園 会議室
2/25 日（水）	懇談&会食会 飲食会にて歓談をして職員間の交流を図る。	飲食店での飲食・懇談を通して交流を深める。	飲食店
3/17 日（火）	1年の振り返りとエールの交換 歓談&飲食 動画放映（上司からのエール） 本人達の言葉、記念写真撮影	ねぎらい チームメンバーと共に 1 年間を振り返る。同期同士での親睦を深める。	星谷学園 会議室

(5) リスク管理委員会

月ごとに事業所の事故報告やひやりはっと報告について、委員会として検討した。事故件数は前年度比 24 件減であったが、利用者の骨折事故は 1 件から 4 件に、他に 16 針縫合の事故が 1 件あった。骨折要因は転倒が 3 件、扉挟みが 1 件であった。利用者の高齢化に伴う転倒リスクの増加がある。労災事故は前年 3 件から 7 件に増加した。

事故報告件数 : 305 件（前年度比△24 件）

ヒヤリハット件数 : 171 件（前年度比△11 件）

（ ）内は前年度数

内容	事故件数	ヒヤリ件数	内容	事故件数	ヒヤリ件数
転倒・怪我	86 (90)	37 (47)	所在不明	8 (9)	14 (11)
服薬	31 (36)	30 (27)	金銭	2 (4)	3 (4)
器物破損	28 (33)	5 (10)	誤食・異食	10 (4)	6 (6)
車両	16 (23)	5 (4)	紛失	11 (15)	14 (14)
他傷	73 (71)	17 (11)	衛生・環境	2 (1)	5 (4)
確認・連絡	12 (10)	18 (20)	誤嚥	3 (2)	7 (3)
不適切対応	7 (2)	1 (1)	その他	15 (24)	9 (17)
個人情報	1 (5)	0 (3)	計	305 (329)	171 (182)

※労災事故 8 (3) 件

※利用者骨折事故 4 (1) 件

(6) 防災委員会

10 月に法人合同防災訓練を実施、法人本部への情報集約。規模縮小し広域避難場所への避難は各事業所での判断の上実施した。

(7) 広報委員会

法人広報誌「カシオペア 33 号、34 号」発行。HP の更新管理。法人事業所応援企画として星谷会事業所で作っている自主製品を掲載したパンフレット（各事業所毎ではなく星谷会版として）について検討し取り組みを始めた。

(8) 地域貢献委員会

- ・これまでデイサービスセンター主催のイベントとして行っていた「えびなこの街でくらそう」を法人地域貢献事業として地域貢献委員会を中心に実行委員会を立ち

上げ、11/1に海老名中央公園で実施。市内の就労事業所や団体にも声をかけている。
自主製品の販売や事業所紹介として参加していただいている。

- ・きら星コレクションは海老名市役所ロビーにてアールブリュット展との共催で9/29～10/10に開催。
- ・地域清掃活動として各事業所の周辺の清掃を実施。その際に使用するビブスを作成。
- ・毎年行っていたお米一合運動をフードドライブとして実施。1/26～2/4と期間を限定し、提供された食品はえびなフードバンクへ提供。
- ・毎月末に行われている「フードバンクえびな」へ参加。

(9) 衛生委員会

- ・毎月の会議で、法人内事業所における「労働環境」「労災の発生状況」「感染症について」「超過勤務について」の内容を確認・共有を行った。
- ・現行の「感染症対応表」について検討し、改訂版を管理者会議へ提案を行った。
- ・感染症が流行する時期の前に、各事業所へ感染防止対策を行うように促した。

(10) 海老名市要望書

- ・2025年11月に法人から海老名市長あてに要望書を提出。要望事項について継続協議をする回答を得た。

- ① 物価高騰に対する補助金について
- ② 海老名市障がい福祉に係る単独補助金の維持について
- ③ 海老名市における福祉人材を確保・定着するための方策について
- ④ 結夢及び結夢+の委託費の見直しについて（継続要望）
- ⑤ 日中一時支援事業単独型の単価の見直しについて（一部継続要望）
- ⑥ 海老名市における重度障がい者の進路先・ニーズの充実について（新規要望）
- ⑦ わかば会館の将来構想に伴う地域活動支援センター結夢の移転について
- ⑧ 海老名市における地域生活支援拠点等整備事業の推進について

6. 理事会・評議員会等開催状況

理事会

回	実施日	議 案
第161回 理事会	5月29日	1. 議事 第1号議案 2024年度事業報告について 第2号議案 2024年度決算報告及び監事監査報告について第3号 議案 福祉充実残額について 第4号議案 定款変更について 第5号議案 理事・監事の候補者について 第6号議案 評議員の候補者について 第7号議案 苦情解決第三者委員の選任について 第8号議案 評議員選任・解任委員会委員の選任について 第9号議案 評議員選任・解任委員会の開催について 第10号議案 評議員会の開催について 報告事項 (1) その他
第162回 理事会	6月17日	1. 議事 第1号議案 理事長の選任について 第2号議案 業務執行理事の選任について

第 163 回 理事会	10 月 29 日	1. 議事 第 1 号議案 2025 年度第一次補正予算について 第 2 号議案 規程改定について ① 育児・介護休業規程改定 ② 最低賃金の改定について ③ 特定処遇改善加算の支給時期変更について ④ 職員の昇給昇格の規則の変更について ⑤ 再雇用制度実施要綱他の策定について ⑥ 役員報酬規程の変更について ⑦ 旅費規程の変更について 第 3 号議案 定時評議員会の開催について 2・報告事項 (1) 常勤職員給与規程の変更について (2) パート・嘱託給与表の改定について (3) グループホーム建設計画の進行について (4) 新規事業の方向性について (5) 2025 年度理事長及び執行理事の業務報告について
第 164 回 理事会	3 月 12 日	議事 第 1 号議案 2025 年度第二次補正予算について 第 2 号議案 2026 年度法人人事について 第 3 号議案 相談ほしやの事業廃止について 第 4 号議案 規程改定について 給与規定・外国人職員採用要綱・星谷学園奨学金返済支援制度規程 第 5 号議案 2026 年度当初予算について 第 6 号議案 2026 年度事業計画について 第 7 号議案 新規事業の開設準備用地の購入について 第 8 号議案 評議員選任・解任委員会の開催について 第 9 号議案 役員賠償責任保険の契約について 第 10 号議案 評議員会の開催について ・報告事項 (1) 障害福祉従事者処遇改善緊急支援事業補助金について (2) 結夢移転予定（パンビーナへ）について (3) 新グループホーム建築計画に伴う国庫補助金及び福祉医療機構の融資申請について (4) 2025 年度理事長及び執行理事の業務報告について (5) 理事会・評議員会の年間予定について
第 165 回 理事会	3 月 31 日	議題 第 1 号議案 管理職員の異動・選任・再雇用について 第 2 号議案 その他

評議員会

回	実施日	議 案
第 87 回 評議員会	6 月 17 日	報告 1 次期評議員について 報告 2 2024 年度事業報告について 報告 3 その他 議事 第 1 号議案 2024 年度決算報告及び監事監査報告について 第 2 号議案 福祉充実残額について 第 3 号議案 定款変更について 第 4 号議案 理事・監事の選任について その他 (1) 次回評議員会について

第 88 回 評議員会	11 月 13 日	議事 第 1 号議案 2025 年度第一次補正予算について 第 2 号議案 役員報酬規程の変更について 報告事項 ・ 規程改定について ・ 育児・介護休業規程改定 ・ 最低賃金の改定について ・ 特定処遇改善加算の支給時期変更について ・ 職員の昇給昇格の規則の変更について ・ 再雇用制度実施要綱他の策定について ・ 旅費規程の変更について ・ 常勤職員給与規程の変更について ・ パート・嘱託給与表の改定について ・ グループホーム建設計画の進行（案）について 新規事業の方向性について その他 （1）次回評議員会について
第 89 回 評議員会	3 月 26 日	議事 第 1 号議案 2025 年度第二次補正予算について 第 2 号議案 2026 年度事業計画について 第 3 号議案 2026 年度当初予算について 第 4 号議案 規程改定について 報告事項 報告 1 2026 年度法人人事について 報告 2 相談ほしやの事業廃止について 報告 3 新規事業の開設準備用地の購入について 報告 4 障害福祉従事者処遇改善緊急支援事業補助金について 報告 5 結夢移転予定（パンビーナへ）について 報告 6 新グループホーム建築計画に伴う国庫補助金及び福祉医療機構の融資申請について 報告 7 評議員選任・解任委員会の開催について 報告 8 役員賠償責任保険の契約について 報告 9 理事会・評議員会の年間予定について その他 （1）次回評議員会について

2025 年度 星谷学園・星谷デイさくら事業報告

1. 重点課題の取り組み状況

(1) 利用者の権利擁護等の取り組み

- ・虐待防止に向けた取り組みに関しては、法人の虐待研修への参加やあおぞらプランの定期確認、全体会議等での定期的な振り返り、人権チェックリストの実施を通して支援のあり方を検証した。
- ・身体拘束防止に向けた取り組みについては、身体拘束の在り方について法人の身体拘束適正化委員会にて星谷学園利用者の身体拘束の状況等について検証を行った。

(2) 高齢化に合わせた支援の提供

- ・高齢化に合わせたプログラム内容及び活動場所の見直しを行った。
- ・定期的な個別支援計画のモニタリング時に支援員、管理栄養士の参加による食事評価を実施し状態に応じた食事を提供し事故防止に努めた。

(3) 開かれた施設の実現

- ・地域行事（えびなこの街でくらそう、わかば会館まつり）参加を通して地域交流を図った。星谷まつりについては支援員欠員の状況により実施が困難であったため、外部イベント演者を招いた園内行事（星谷フェス）を開催した。

(4) 困難事例への対応

- ・GSV（グループスーパーバイズ）を会議日に2回開催し利用者支援のアイデアを出し合い担当支援者の心理的不安軽減と新たな支援の模索を行った。また、支援員への外部研修の参加を促した。

(5) 防災感染対策の取り組み

- ・定期的な防災訓練、防災BCPの研修、訓練、感染症BCPの研修、訓練を実施した。
- ・年度内に発生した感染症クラスター（2回）収束後に反省会を開催して必要と思われるBCPの修正を行った。

(その他)

- ・入所部門において男女支援員の確保が困難な状況が継続しており、法人内の他事業所からの応援勤務により入所支援員の公休日取得および支援体制の維持に努めたが人員確保が引き続き課題となっている。
- ・11月に事業所敷地内に防犯カメラ5台を設置した。
- ・12月に施設整備として、入所棟及び通所棟共有スペースの壁紙交換、1階浴室脱衣室の修繕、居室ドアの交換等の改修工事を実施した。なお、本工事については、前年度に旧星谷学園家族会よりご寄付いただいた寄付金を活用した。
- ・保護者懇談会を9/16（火）及び9/17（水）開催した。
- ・地域連携推進会議を2/26（木）に同法人グループホームとの共同で開催した。

2. 施設入所支援の実績

(1) 入所利用者の状況（2025年度末現在）

入所 入退所状況

	男	女	入退所前後の状況
前年度末利用契約者数	20人	20人	

2025 年度新規利用契約者数	0 人	0 人	
2025 年度退所利用者数	1 人	1 人	
2025 年度末契約利用者数	19 人	19 人	

入所 利用状況

年間延利用者数	12692 人	1 日の平均利用者数	38 人	年間利用率	95.0%	
---------	---------	------------	------	-------	-------	--

入所 年齢構成

平均年齢 58 歳（最高 84 歳）

19 以下	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70 以上
0	0	0	6	17	10	5

入所 障害等級別状況

A1	A2	B1	B2	身障手帳
21	12	4	0	10

入所 障害支援区分

1	2	3	4	5	6	平均
0	0	0	0	13	25	5.7

入所 診断名（延人数）

自閉症・自閉傾向	ダウン症	知的障がい	精神障がい	身体障がい
8	3	38	5	10

(2) 短期入所（宿泊）利用状況

（ ）内は前年度比

契約利用者数	実利用者数	年間利用延宿泊日数	利用率
77 人	20 人（+2 人）	563 日（-202 日）	38.6%（13.8%↓）

(3) 日中一時利用状況

（ ）内は前年度比

契約利用者数	実利用者数	年間利用延日数	利用率
34 人	12 人	176 日（+10 日）	12%（-6%↓）

3. 生活介護の実績

(1) 利用者の状況（星谷学園・星谷デイさくら）

入退所状況（入所・通所）

	星谷学園		星谷デイさくら		備考
	男	女	男	女	
前年度末利用契約者数	19 人	20 人	16 人	9 人	
2025 年度新規利用契約者数	1 人	0 人	0 人	0 人	
2025 年度退所利用者数	1 人	1 人	1 人	0 人	・入所女性利用者、体調不良により入院、10/7 逝去 ・入所男性利用者、誤嚥性肺炎により入院、11 月末退所、1/12 逝去 ・通所男性利用者 1 名が 5/1 より入所利用開始 ・2024 年末通所女性利用者 1 名体調不涼により退所
2025 年度末契約利用者数	19 人	19 人	15 人	8 人	

通所利用者 年齢構成

平均年齢 45 歳

	19 以下	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70 以上
星谷デイさくら	0	2	4	6	10	1	0

通所利用者 障害等級別状況（重複含む）

判定	A1	A2	B1	B2	身障手帳
星谷デイさくら	12	9	2	0	4

通所 障害支援区分

区分	1	2	3	4	5	6	平均
----	---	---	---	---	---	---	----

星谷デイさくら	0	0	0	1	7	15	5.6
---------	---	---	---	---	---	----	-----

(2) 日中活動利用状況（入所・通所）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
学園提供日	22	23	22	23	23	22	23	22	23	23	20	23	269
学園	利用者	40	40	40	40	40	40	39	38	38	38	38	
	延数	825	868	844	894	878	842	875	822	852	732	841	10125
さくら提供日	21	20	21	22	16	20	22	18	20	19	18	21	238
さくら	利用者	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	
	延数	425	384	408	432	314	382	389	328	385	336	387	4501

(3) 日中活動内容

2025 年度末現在

単位	グループ名	入所利用者	通所利用者	主な作業内容
星谷学園 生活介護	レインボー	男 13 名 女 4 名	男 0 名 女 0 名	アルミはがし、タオルたたみ、缶つぶし、エコキャップ、散歩、自立課題
	マンボウ	男 2 名 女 12 名	男 0 名 女 0 名	アルミはがし、タオルたたみ、ししゅう、散歩、運動、自立課題
	ゆくる	男 4 名 女 3 名	男 0 名 女 0 名	アルミはがし、タオルたたみ、ししゅう、散歩、運動、自立課題
星谷デイさくら	さくら	男 0 名 女 0 名	男 6 名 女 4 名	アルミはがし、タオルたたみ、匂い袋、創作活動、散歩、自立課題
	あさがお	男 0 名 女 0 名	男 9 名 女 4 名	アルミはがし、タオルたたみ、刺しゅう、運動、散歩、
他事業所生活介護利用者		女 1 名 (再掲)		かっぱ堂

(4) 行 事

星谷フェス	支援員欠員の補充が困難であったため、星谷まつりの開催は断念して外部のイベント演者を招いての園内行事を入所・通所合同開催で実施。
クリスマスイベント	事業所内にて一同に会し、歌のボランティアさんに来所いただきクリスマスプレゼントを利用者へ渡したり、クリスマスソングを皆さんで歌った。
フラダンス	毎月 1 ボランティア講師に来所頂き、希望者とフラダンスを楽しんでいる。

(5) 作業収益（収支額）

収入		支出	
作業工賃・自主製品販売等①	149,179 円	支給額合計①	148,060 円
前年度繰越金②	347 円	両替手数料②	1,100 円
利息③	42 円	次期繰越③	408 円
収入総額①+②+③	149,568 円	支出総額①+②+③	149,568 円
1 人当たりの分配金（満額支給者）		2,470 円（前年度比-480 円）	

(6) 通所方法

施設送迎	家族・外部サービス	自力（徒歩）	計
19 人	6 人	0 人	23 人

4. 研 修（外部）

実施日	研修内容	参加者
8/14	令和 7 年度障害福祉施設協会 新任職員研修会	志賀拓海
8/31	PWS の基礎知識と集団外来について	川村多恵

9/30	バイオメカニクスに基づく介護者に負担の少ない介助方法	藤生悠斗
10/21	(株) 尾屋産業秋季提案会	名倉和希
11/7	令和7年度障害福祉施設協会 新任職員研修会	小山涼夏
12/18	令和7年度サビ児管基礎研修	武井紀人
12/20	神奈川県福祉職員実践報告会	白石雄希

5. 給食

給食は業務委託により提供しており、「郷土料理食」などの特別食を増やした食事提供に努めた。また新型コロナウイルスなどの感染症予防対策として密集を避けた食事提供となり、配膳車や衛生用品などの導入や入れ替えを行い、以前より衛生面への配慮がされた給食提供を行っている。

利用者の食事形態、トロミ剤や補助食品も見直し、「食べやすさ」に配慮した。栄養ケア計画を作成し入所者の栄養管理を行い、栄養状態を定期的に記録・評価し必要に応じて計画の見直しを行っている。

6. 健康管理

日々の心身の健康状態の把握、服薬状況の確認、医師やその他の専門家との相談、健康・給食委員会による情報提供などにより適正を期した。またリウマチ治療については、施設内での看護師による皮下注射を継続して行っている。

定期検診等の実施回数

内科検診	歯科検診	健康診断	体重測定	予防接種	往診歯科
6回	1回	1回	12回	2回	21回

医務室活動状況（利用者診療状況）

	内科	精神科	外科	整形外科	歯科	眼科	耳鼻科	皮膚科	泌尿器	その他	
利用者通院延回数	228	368	8	13	323	11	1	239	2	4	1197 (↓)

入院の状況

利用者	入院期間	入院日数	入院理由
女性入所利用者1名	5/8～6/4	28日	発熱・嘔吐・痰の絡んだ咳、肺炎
女性利用者1名	4/1～7/16 10/4～10/7	107日 4日	経口的に食事の摂取が困難、 発熱、意識レベルの低下、呼吸停止 10/7 逝去
女性利用者1名	8/6～8/19	14日	精神不安定
男性入所者1名	8/9～11/30	114日	発熱、痰の絡んだ咳、誤嚥性肺炎 11月末退所、1月12日逝去
男性利用者1名	2/5～3/31	55日	ふらつきによる転倒が増え、服薬調整の為入院

※入院日数は入退院日を除く

7. 衛生管理

衛生管理については、清掃パート職員を中心に、園舎内の清潔保持に努めた。また、新型コロナウイルス対策として次亜塩素水や界面活性剤を使用し日常的に生活環境の拭き取り消毒を行った。

美容・理容については、施設内で美容師による理髪を低料金で実施した。

9月～10月にかけて新型コロナウイルスのクラスター（利用者12名、職員4名）、1月～

2月上旬にかけてインフルエンザB型のクラスター（利用者17名、職員12名）が発生した。

8. 防災対策

今年度は、従来の避難訓練、通報訓練以外にBCPの防災・感染症の訓練をそれぞれ3回実施した。

防災訓練（防災BCP）＆感染症訓練（感染症BCP）

実施日	項目	内容
4月23日	感染症対策訓練 （感染症BCP訓練1）	感染症座学、救急蘇生法・AED研修
5月9日	避難訓練	平日日中地震、火災想定
5月28日	総合防災訓練 （防災BCP訓練1）	施設内消防設備の説明確認、消火訓練、通報訓練 用具の設置点検
5月	防災備品の確認	防災倉庫内の防災備品の確認
6月14日	避難訓練	休日夜間地震想定での避難訓練
10月1日	法人合同総合防災訓練 （BCP訓練2）	平日日中地震、火災想定。通報訓練、消火訓練
10月22日	感染対策訓練 （感染症BCP訓練2）	嘔吐物処理訓練
1月14日	総合防災訓練 （BCP訓練3）	一斉送信メールを送付して安否確認訓練を実施
1月26日	感染症発生時の初動訓練 （単独）（複数） （感染症BCP訓練3・4）	BCPに沿った感染症発生時の初動の確認・訓練

9. オンブズパーソン相談状況

1名のオンブズパーソンが来園し利用者からの相談を受けた。施設側への要望は0件、傾聴が主となっている。

オンブズパーソン活動実績

訪問日	オンブズパーソン	相談者	要望書件数
9日	延べ9人	延91人（-19）	0件（±0）

相談内容：人間関係21件 職員7件 食事28件 仕事・作業24件 設備1件 その他70件

10. 危機管理等

設置されているAEDと同じデモ機を使って緊急蘇生法の研修を行った。また、誤嚥時の異物除去研修や嘔吐物処理についても研修を実施している。

ひやりはっと・事故報告について、部署毎、運営会議、全体会議にて、定期的に検討し周知した。

11. 苦情・要望について

苦情についてはなし、要望については家族懇談会開催時に今後もこのような懇談会を継続して欲しいとの要望が挙げられた。

2025 年度 計画相談支援事業所ほしや事業報告

1. 重点目標への取り組み

(1) モニタリングの充実

計画の作成対象者が星谷学園入所者ということでサービス等の変更は少ないが、モニタリング時には星谷学園に訪問し、状況を確認したうえでモニタリングを実施した。

(2) 相談支援員の育成

兼任相談員体制を維持し、相談支援に携わることで、福祉サービスへの理解や支援や考え方など、相談支援員としての知識や資質の向上に繋げるための育成について定期的な育成の場の確保、実施をすることができなかった。

2. 契約者数および計画作成数

契約者数

	契約者
2025 年度	12

計画作成数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
サービス等利用 計画作成数	0	1	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	5
モニタリング 作成数	0	3	1	2	0	2	0	1	0	0	2	1	12

2025 年度 あまいろ事業報告

1. 重点課題の取り組み状況

(1) 利用者の意思確認

個々に、「タイミング」「参加者」「環境」について考え、意思を聞く場を設定した。目の前のことや今日のこと、経験したことが、願いや好みとして発信されることが多く、障害特性による意思表示の苦手さがあった。また、言語表出の補いとして絵カードを使用した。日頃日課を伝える機能として提示しているため、希望を聞くという「質問」が伝わりにくかった。選択の場を増やし、本人職員共に経験を積み重ね意思確認の工夫を考える必要があった。次年度へ続けていきたい。

(2) 安定した支援環境

2024 年度途中で常勤男性の退職があり、2025 年度は補充がなかった。また、常勤職員の異動による交代もあり、年度前半は安全を守ることに重きが置かれた。規模の小さい事業所のため、1 名の職員の休みが大きな人員不足となり負担感があった。

専門性を高める為の外部自閉症研修参加は、日程の都合により受講できなかった。

収支を安定させ、職員規模を大きくするためにも、利用者増を目指していたが、見学や相談は受けたものの、利用に至らなかった。10 月頃より 1 名の利用者が長期休みとなり 1 月末で退所となってしまった。

2. 利用状況

入退所状況

今年度は退所者 1 名となった。

	男	女	入退所前後の状況
2024 年度末利用契約者数	9 人	5 人	
2025 年度新規利用契約者数	0 人	0 人	
2025 年度退所利用者数	0 人	1 人	退所後在宅 訪看利用
2025 年度末契約利用者数	9 人	4 人	

月別利用状況

開所日、前年比 3 日増。延べ利用数、前年比 31 減。10 月より長期欠席者が 1 月末で退所。

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
開所日	21	21	22	23	17	21	23	19	21	20	19	22	249
契約者数	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	13	13	
延べ利用数	220	215	234	228	182	217	228	185	209	198	185	219	2520

送迎利用状況 それぞれ併用あり

事業所送迎	家族送迎	他サービス利用
7 名	7 名	7 名

年齢 3 月末

年齢	20 歳未満	20～29 歳	30～39 歳	計
----	--------	---------	---------	---

男性	0 名	5 名	4 名	9 名
女性	0 名	2 名	2 名	4 名

障害等級別状況

A1	A2	B1
9	3	1

障害支援区分

区分 4	区分 5	区分 6	計
1 名	1 名	11 名	13 名

重度障害支援加算対象者 13 名

障害

自閉症	その他	計
12 名	1 名	13 名

3. 活動内容

作業収入

項目	金額
タオル	191,863 円
ちらし	13,200 円
アラミド	1,727 円
アルミ缶	8,250 円
除草作業	54,260 円
収入計	269,300 円

工賃支払い 2 回(4 月・10 月) 1 日当たり約 106 円 全日通所者 26,370 円(年間)

4. 給食

引き続き昼食が利用者の楽しみとなるようできるだけ個々の偏食に配慮した食事提供を行った。摂取量の把握や BMI の管理を行った。

食材費の値上がりや人件費の上昇により 1 食単価が上がっている。

5. 健康管理

看護師による体重測定と血圧測定を毎月実施した。嘱託医によるインフルエンザ予防接種(11 月)と健康観察を実施した。感染症の流行はなかった。

6. 防災

10 月に海老名市消防の立ち入りがあり、指摘事項等に対し対応した。○パーテーション不燃加工の実施。○消防計画に南海トラフ地震に係わる地震対策を追記。○年 2 回避難訓練及び消火訓練、年 1 回通報訓練の実施。

避難訓練

実施日	項目	内容
7 月 11 日	避難・通報・消火	避難訓練(火災想定)
10 月 2 日	避難	法人合同避難訓練(地震想定)
10 月 22 日	消火	消火訓練

3 月 13 日	避難・消火	避難訓練(風水害想定)
----------	-------	-------------

感染症及び食中毒予防の研修や訓練を計画に基づき実施した。

実施日	項目	内容
4 月 8 日	BCP 研修 BCP 周知	「BCP 感染症について」「BCP 自然災害について」 事業所 BCP について
〃	感染症研修 1	「感染対策実践編」「食中毒」
10 月 8 日	感染症演習 1	感染症発生時の消毒について 嘔吐物処理の仕方・ガウンの着脱の仕方
2 月 18 日	感染症演習 2	感染疑い発生時の対応について・食中毒発生状況
3 月 31 日	BCP 演習	災害時対応（トイレ設置・ポータブル電源等の使い方）
〃	感染症研修 2	「感染症の基礎知識と予防策」

7. 苦情・クレーム
なかった。

8. 研修（外部）

日程	研修名	研修主催	参加者
11 月 2 日	福祉の未来会議	福祉の未来会議実行委員会	赤塚
2 月 10 日	県央東地区中堅研修「差あって別なし」	県央東地区施設長会	赤塚

9. その他

昨年度 2 月、床下に水が溜まっていることに気づく。10 月、配管の接続部に穴がありそこから水の侵入が確認され修繕工事を行った。

9. 今後の課題

（1）利用者の意思確認

言葉による意思確認が難しい方が多い中で、ひとりひとりに沿った意思確認の方法について、検討・実践していく。

（2）利用者の希望に沿った活動

変わらない日課での安定をベースに、それぞれが理解できるシステムを使い、イレギュラーな個別の希望に沿った活動を取り入れていく。

（3）新規利用者の確保

前年度 1 名退所となり、収支が難しくなる予測がある。新規利用者の確保に努める。

2025年度 地域活動支援センター結夢事業報告

重点課題への取り組み

(1) フリースペース活動プログラムの検討

フリースペースでは毎年のように新規の方が登録をする一方で継続利用されていた方がフリースペース以外の場所に繋がってメンバーの入れ替わりは多く、メンバー全員の意見や希望を聞くように心掛けた。登録時に希望を伺い、またミーティングでの意見交換や普段からのコミュニケーションや関係性を大切にしてきた。2025年度も2024年と変わらない利用人数があり、プログラム回数は増えた。内容もメンバーの意見を取り入れ、マンネリ化しないように少しのスパイスを入れ変化させて新鮮な活動を心掛けた。2026年度も継続して「充実した活動」をみんなで考えていきたい。

(2) 各関係機関との連携、ネットワークの強化

自立支援協議会・相談支援事業所連絡会への出席を行い、地域との連携を深めてきた。従来の障がい福祉事業の連携のみならず、医療機関や教育関係、医療的ケアに関する情報共有の場においても参加を継続し、多岐に渡る相談に応じていかれるよう、連携強化に努めた。ネットワーク作りでは、法人内外の催事へ赴き、出張相談・啓発にも取り組んだ。また各種研修会へ参加することで、地域をまたいだ連携にも取り組んできた。主任相談支援専門員の配置により、広い見地においてネットワークを構築できる体制を実現できた。

(3) 課題分析の更なる強化

年間を通じて、各種アセスメントに関連する研修会に参加をした。依然相談内容は多岐にわたっており、相談員が一人で抱え込むことがないよう、随時所内で相談の場を作り、状況によっては複数名で対応にあたっていけるよう体制を整えてきた。また困難事例については月次報告で、市・基幹相談支援センターへ共有を行い、ケースによってはコンサルテーションの調整依頼を行った。

2. 実績

(1) 地域活動支援センター事業

①登録者数（2025年3月31日現在）（前年度比較）

精神	知的	身体	高次脳	発達	重複	その他	計
102 (-5)	53 (+3)	9 (±0)	3 (±0)	10 (+0)	0 (-6)	0	177 (-8)

*障がい名が明らかでない人を「その他」で分類

②ゆうむスペース利用状況

実施日数：251日 延べ利用者数：2762人 1日平均：11.00人

(前年度比較 252日 2751人 10.92人)

精神	知的	身体	高次脳	発達	重複	難病	その他	計
2019	540	7	25	171	0	0	0	2762

③活動プログラム実施状況 実施回数：140回 延べ利用者数：593人（1回平均：4.23人）

(前年度比較 121回

709人

5.85人)

プログラム	実施回数	参加延べ人数	プログラム	実施回数	参加延べ人数
寺子屋	23	6	ゆうむシアター	10	35
パソコンチャレンジ	23	23	調理	23	206
満福亭（生活教室）	21	118	かかし作り	5	16
ミーティング	12	65	歌声ゆうむ	1	7
みんなでモーニング	2	9	クリスマス会	1	13
みんなでランチ	3	18	お汁粉タイム	1	9
みんなで晩御飯	3	17	初詣	1	5
きら星コレクション	1	2	なんちゃってたこ焼き	1	11
職場体験（スープ作り）	2	14	地域拠点事業	1	9
ティータイム	0	0	遠足	1	4
ボーリング大会	0	0	クリーン作戦	3	2

④地域交流支援事業実施状況

障がい者等が、地域社会の一員として、積極的に地域との交流を行い障がい理解の促進を図る事業

9/9 11/16, 17 2/4, 5	「かかし祭り」出展・見学 市内中学生職業体験（有馬中） 市内中学生職業体験（今泉中）	延べ6名参加 延べ5名参加
----------------------------	--	------------------

⑤地域拠点事業実施状況

地域の拠点とし広く門戸を開き、障害の有無に関わらず（総合支援法の対象外でも支援が必要と認められる者）受け入れを行なう事業

3/27	「カラオケ」	11名参加
------	--------	-------

⑥制度のはざま対応事業実施状況

発達障がい者、高次脳機能障がい者等の相談支援や交流促進を図る事業

発達障がい	12人	相談：延べ68件	地活：延べ171回
高次脳機能障がい	3人	相談：延べ147件	地活：延べ25回

（2）相談支援事業の実績

①相談状況（前年度比較）

相談状況	実相談者数	相談件数（延べ）	マネジメント	ケア会議
件数	509人（+52）	5419（+3313）	0（-2905）＊ 項目変わり計上なし	162（+115）

②月別状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
相談件数	498	468	582	561	452	454	455	432	450	331	360	374	5417
マネジメント等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ケア会議	8	5	44	16	11	15	10	7	16	9	14	9	164
計	506	473	626	577	463	469	465	439	466	340	374	383	5581

③相談内容

相談内容	制度・サービス利用	障がいの理解	医療	家族関係 人間関係	家計・経済	不安の 解消	住環境	教育
件数	3921	231	899	246	168	287	0	1
就労	権利擁護	他機関やサービスへの不満		その他	合計			
73	142	0		255	6223			

④相談方法

方法	電話	訪問	面接	同行	その他	計
件数	3712	653	296	134	622	5417

⑤障がい種別

知的	身体	高次脳	発達	精神	重複	難病	その他	計
3396	1449	147	68	723	0	0	336	6119

⑥サービス利用計画作成の状況（2026年3月31日現在）（前年度比較）

知的	身体	高次脳	発達	精神	重複	難病	計
140	21	4	1	8	0	2	175 (-9)

2025年度 相談支援事業所結夢＋事業報告

重点課題への取り組み

（１）当事者の意思決定、権利擁護の遵守と相談支援技術の研鑽

近年、意思決定支援および権利擁護の重要性が高まっている中、当事業所では相談支援専門員が当事者の最善の利益を代弁できるよう、資質向上に注力した。定期的なGSV（グループスーパービジョン）を行った。また、各種研修（強度行動障害、精神科病院入院支援事業、最新の発達障害研究）を通じて支援技術等を学び、得られた知見を事業所内会議で共有することで、チーム全体の支援レベルの底上げと視点の統一を図った。

（２）計画相談支援の充実とネットワークづくり

海老名市およびケアチーム事業所との緊密な情報共有を図り、緊急性の高い事案（GHからの失踪、ひきこもりによるネグレクト、虐待の疑い等）に対しても迅速かつ適切な対応に努めることができた。また、多職種や関係機関とのネットワークを広げることで、個々の障がい特性に応じた実効性の高い「サービス等利用計画」の作成へとつなげた。

なお、専任の調整役が不在となって2年が経過したが、課長の指示のもと、職員がお互いの適性を理解し強みを活かし合うことで、円滑な事業所運営を継続してきた。次年度は、当面1名の欠員による業務量の増加が予測される。相談支援の質を維持・担保するためには、業務効率の見直しや、結夢との連携強化による効率化が急務である。同時に、安定的な支援体制を構築する上で、職員の補充が最優先の課題となっている。

（３）複雑化する課題分析のさらなる強化

外国籍の方や多世代にわたる家族支援など、既存の制度枠に収まらない複合的な課題に対し、OJTを含めチーム内で話し合える状態ができた。また、多制度に跨る情報の収集を行い、家族全体を視野に入れた包括的な解決策の提示に向けた相互の助言に努めた。

実績

①相談状況（前年度比較）

相談状況	実相談者数	相談件数（延べ）	マネジメント	ケア会議
件数	298（+23）	7425（+4575）	0（-3620）	340（+245）

②月別状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
相談件数	531	589	715	693	596	586	585	635	588	589	498	480	7085
マネジメント等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ケア会議	51	39	32	22	24	25	16	35	28	22	18	28	340
計	582	628	747	715	620	611	601	670	616	611	516	508	7425

③相談内容

相談内容	制度・サービス利用	障がいの理解	医療	家族関係 人間関係	家計・経済	不安の 解消	住環境	教育
件数	6345	15	663	465	125	238	0	7
就労	権利擁護	他機関やサービスへの不満		その他	合計			
180	70	0		206	8314			

④相談方法

方法	電話	訪問	面接	同行	その他	計
件数	5161	872	282	119	651	7085

⑤障がい種別

知的	身体	高次脳	発達	精神	重複	難病	その他	計
4364	2343	157	427	532	0	0	139	7962

⑥サービス利用計画作成の状況（2026年3月31日現在）（前年度比較）

知的	身体	高次脳	発達	精神	重複	難病	計
171	21	5	13	8	23	0	241（+15）

2025年度SELPIナ事業報告

1. 重点目標に対する課題と評価

【就労継続支援B型】

○重点課題

- (1) 利用者個々に合わせた作業種の提供や、働きやすい作業環境の調整を行う。
 - ① 個々の利用者の作業スキルを勘案した上で、作業種の提供を行っている。
 - ② 2階製パン室の機材を撤去し、作業室に改装している。現在、2階作業室については、静かな環境で作業を行いたい人や、大人数よりも少人数の方が周囲の影響を受けやすく、安定した活動が行える方を対象に作業環境を分けている。
 - ③ パーソナルスペースを設け、その方が安心して活動できる環境を整えている。
- (2) 工賃向上のため、取引先企業と作業量の調整や単価見直を検討する。
 - ① メインで行っているガス警報器の説明書折について、取引を行っている会社と話し合い、作業単価を引き上げている。また、12月より、作業量が増えており、単価引き上げ分も含めると収入が1.5倍程となっている。

12月より、ペットフードの梱包作業を開始しており、状況に応じて受注量を増やすことを考えている。
 - ② メインの作業であるクリーニング（エプロン・タオル）の受注量が10月頃から減少しており、売り上げが三分の一程減っている。
- (3) 取引先企業との関係強化と障がい者理解を図る。

引き続き、取引先の企業と良好な関係を維持し、安定した受注量確保につなげていく。また、辰巳合成（海老名市）、旭段ボール（海老名市）、ライフクリーニング（綾瀬市）などの地元企業と連携し、地元に根差した事業を展開していく。

 - ① 受注先の企業とは、良好な関係を維持しており、特にトラブル等はなく、信頼関係を築けている。また、納品時には、利用者の方と一緒にいくこともあり、利用者が取引先の方が会話をするなどの交流を図れている。
- (4) 利用者の増員に関する取り組み

今年度は、年度当初の新規利用者は無く、昨年度末や今年度途中で他事業所に移る可能性のある方が複数見込まれている。そのため、相談支援事業所や学校などの関係機関と連絡を取り合いながら、新規利用者獲得のために働きかけていく。

 - ① 相談支援事業所の相談員には、新規利用者紹介の依頼をしている。男性利用者1名については、海老名市サポートセンターからの紹介であったことから、今後も利用希望の方があれば、紹介していただけるように依頼している。
 - ② 毎年依頼を受けている座間養護学校の見学会では、学校での実習期間に関わらず、2～3日間であれば、体験自習を受けることをお伝えしている。その後、見学者から体験実習の依頼があり、3月に実習を行っている。実習後は卒業後の進路として考えたいとのお話をいただき、次年度、長期実習の予定となっている。
 - ③ 今年度は、生活拠点が変わったために退所された利用者が5名おり、入所された方

が3名であった。

【就労定着支援】

(1) 就労先企業との連携強化

就労された方が、継続して働きやすい環境を実現できるよう、就労先の企業と連絡を密に取り、連携しながら、課題等に対処していく。

① 4月に1名の方の定着支援が終了しており、以降は3名の支援を行っている。3名については、今のところ大きな課題は無く、安定して働かれている。

② 定着支援期間終了後の方について、就労先の企業から連絡があり、訪問して面談する等、対応を行っている。定着支援期間終了後の支援については、綾瀬市と海老名市には、就労支援の担当支援員が配置されており、対応が可能との返答をいただいている。

(2) 継続した就労への支援

利用者本人と対面で面談しながら、仕事面や生活面について、課題を整理し、継続的な就労に繋がるようアドバイスしていく。

① 定着支援の際には、企業訪問を行って面談しており、適時、仕事を継続するためのアドバイス（企業とのやりとりや、生活面等について）を行っている。

※2025年6月1日サービス更新をしている。指定有効期限満了年月日は、2031年5月31日となっている。

2. 利用状況

月別利用者状況

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
就労継続支援 B型	在籍者数	38	37	39	38	38	38	38	38	37	37	37	36	月平均 37.5
	延べ人数	683	652	687	776	552	681	741	610	661	655	594	667	7,959
就労定着	在籍者数	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	月平均 3.08
	月実績数	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	37

※年間活動日=245日 平均利用率=B型 88.6% (実人数による利用率・就労定着含まず)

入退所の状況

【就労継続B型】

年度当初在籍者数	男	女	備考
	20人	18人	
2025年度入所利用者数	2人	1人	2025年6月に男性2名が入所 2025年7月に女性1名が入所
2025年度退所利用者	1人	4人	2025年4月末日で女性1名が退所 2025年6月19日付けで女性1名が退所 2025年6月末日で男性1名が退所 2025年11月末日で女性1名が退所

			2026 年 2 月末日で女性 1 名が退所 2026 年 3 月 6 日付けで女性 1 名が退所
年度末在籍者数	15 人	20 人	

平均年齢・年齢構成（2025 年度末）

	性別	19 以下	20～29	30～39	40～49	50～59	60 以上	平均年齢
就労	男性	0	7	4	5	4	1	36.0
B 型	女性	0	6	3	3	2	0	

療育手帳級別状況（2025 年度末）

就労継続 B 型			
A 1	A 2	B 1	B 2
3	9	18	5

障害支援区分（2025 年度末）

区分	1	2	3	4	5	6	未認定
就労継続 B	0	2	7	9	4	1	12

3. 作業収支

(1) 作業種及び工賃

受注作業については、ガス警報器説明書加工（エコー）の単価が上がり、受注量が増えたことが工賃増加に大きく寄与している。一方、昨年度最も収入があったクリーニング作業（ライフクリーニング）は、受注量の減少により、減収となっている。その他作業については、大きく減少したものはなく、収入及び作業量についても安定していた。

作業全体の収入では、昨年度に比べ上がっており、**平均工賃 31,403 円 前年度比 +6502 円**となっている。

就労会計

項目	金額
企業庁水道局*水道メーター	1,276,000
施設外受託事業*清掃	561,000
エコー	4,911,089
ライフクリーニング	3,976,408
大洋テクノ	630,504
ロザフィ	476,840
旭段ボール	911,317
辰巳合成	488,928
その他	884,024
収入合計	14,116,110

項目	金額
給与支給（賞与含む）	11,953,318
仕入れ材料費	113,699
光熱費	771,736
消耗品費（備品購入含）	176,641
賃借料	305,184
外注加工費	261,000
通信運搬費	148,760
燃料費	306,817
その他経費	78,955
支出合計	14,116,110

4. その他支援

(1) 通所支援

送迎バス(マイクロバス)と送迎車(ワゴン車)を綾瀬市及び海老名市内に2台を走行させ利用者へ送迎サービスを実施した。

通所状況(2025年度末)

電車・バス	送迎車	徒歩	家族送迎	その他(自転車等)
17	19	7	3	0

※e キャット(企業バス発着場・SELP ビナの送迎バス)まで公共交通機関を利用する方や、片道のみ SELP ビナの送迎バスを利用される方については、複数回答となります。

(2) 余暇支援

大きな行事については、10月にビナ祭り、1月に新年会を実施している。ビナ祭りについては、利用者、支援員に加え、就労者を、新年会については、ご家族に参加して頂いている。

その他、各月土曜日に、自治会で希望の上がっていた余暇活動等を行っている。また、日中活動時間の余暇活動も増やしており、季節に合わせた食べ物を皆で食べたり、DVD鑑賞会やドライブを行ったりと、以前に比べ、余暇活動の機会を増やしている。

(3) オンブズパーソン

毎月2名のオンブズパーソンに訪問して頂き、利用者の方と面談を行っている。相談内容については、作業や人間関係、生活について等の内容となっており、事業所として対応が必要な相談内容は無かった。

(4) 会計及び事務

新会計基準に準じ適正な会計処理を行っている。

(5) 給食

委託業者(株式会社ニチダン)による昼食提供を行っている。月に1回、2択から選択できるメニューや、季節に合わせた昼食を提供しており、飽きがこないよう、配慮していただいた。

5. 健康管理・衛生管理

利用者の健康管理については、日々の変化を見ながら、対応しており、状態によっては、静養を促したり、ご家族と連絡を取り合ったりしている。今年度は、持病がある方の様子を見る必要が数件あり、支援員間の情報共有も密に行った。

感染症予防対策研修として、嘔吐物の処理実践研修と感染症対策の視聴研修を行った。

6/19 健康診断、10/15 インフルエンザ予防接種、2/26 内科検診を実施した。

6. 防災対策

防災については、海老名市の消防機関の指導により適正を期した。また、必要に応じて地震・火災に備えての訓練を実施した。

事業所内で、BCPに関する研修を行っており、災害発生時の初動について、職員会議

で確認した。

防災訓練実施状況

実施日	項 目	内 容	備 考
7 月 10 日	火訓練・通報訓練・避難訓練	地震・火災想定	
10 月 2 日	通報訓練・避難訓練	地震想定	法人全体訓練
3 月 6 日	消火訓練・通報訓練・避難訓練	地震・火災想定	

7. 会計管理

会計管理については、星谷会経理規程、給与規程等に沿った適正な会計処理に努めた。

8. 外部研修等

実施日	研修内容	参加者
8 月 27 日	虐待防止・身体拘束廃止研修～自分や周りの支援を振り返ってみよう～	渡邊
10 月 28 日	安全運転管理者講習会	白井
11 月 4 日	社会モデルに基づいた意思決定支援	渡邊、
12 月 20 日	第 40 回神奈川県障害福祉職員実践報告会	渡邊（発表者） 白井（役員）
1 月 26 日	ロボット介護機器・ICT の効果的な活用について	渡邊
1 月 26 日	オンブズパーソンネットワーク研修	山口
2 月 9 日	県央東地区中堅研修（講義とグループワーク）	山口
3 月 2 日	あおぞら意見交換会	山口

9. 今後の課題

・今年度は、生活拠点を移られた利用者の方が多かったため、年度末の就労継続支援 B 型の実員が 35 名と減少となった。引き続き、新規利用者獲得のため、関係機関との連携が必要になっている。

・活動内容の見直しについて、今年度、高齢化や障がいの重度化による将来的な活動内容の変更も踏まえ、日中余暇の回数を増やしてみた。余暇活動を増やしたものの、作業収入は伸びているため、2026 年度の基本報酬に影響は無かった。

今後も生産活動と余暇活動のバランスを見ながら、利用者の方にとって選ばれる事業所になるよう、考えていく必要がある。

2025 年度 海老名市障害者第一デイサービスセンター事業報告 (指定管理による運営 通称：レインボードリーム)

1. 重点課題の取り組み状況

(1) 利用者の自己選択、決定を支援し主体的な生活が送れるよう支援する。

- ・日帰り外出の行き先を決める際には、利用者の選択の一助となるように行先のプレゼンテーションをおこなった。どのようなことができるのか、何が食べられるのかなど楽しみをお伝えし、利用者が選択、決定する際の助けになるようにした。

- ・日々の生活場面では、活動選択やお弁当注文時など、利用者にわかりやすいように写真カードやメニュー表を使用し自己選択、決定を支援した。

- ・神奈川県主体の意思決定支援ガイドライン研修を職員が受講し、利用者の意思決定支援の手がかりとした。

(2) 大規模災害への対応

- ・事業継続計画（BCP）に基づいた訓練を年 4 回実施した。

- ・法人でおこなった防災に関する研修に参加し、事業所のある地域の災害想定に対する理解を深めた。

- ・避難確保計画の見直しをおこなった。

(3) 行事の充実

- ・今年度も日帰り外出を実施している。参加する人数を少なく設定し、より利用者の意見を取り入れた行程が組めるようにした。

- ・8 月にはサマーイベント、11 月に焼き芋大会、12 月に忘年会、1 月に新年会を開催した。忘年会、新年会では久しぶり調理をおこない、昼食の提供をおこなった。

(4) 食品加工事業の見なおし

- ・職員の移動もあり、24 年度中から中止しているジャム製造については引き続き製造を中止している。引き続き、製造再開に向けて製造工程の見直し、機器の導入による効率化、研修への参加を通して品質向上、収益向上を図る。

2. 利用状況（2026 年 3 月末）

4 月は生活介護に新規契約利用者 1 名がおり、生活介護 36 名、就労継続支援 B 型 9 名でスタートした。3 月上旬に他市施設入所に伴い、生活介護利用者 1 名が契約終了。2025 年度末の利用契約者数は生活介護 35 名、就労継続支援 B 型 9 名となり 44 名であった。

(1) 月別利用者状況

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
生活介護	在籍者数	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	
	のべ人数	579	552	583	643	452	573	643	482	551	532	494	580	6664
就労継続支援	在籍者数	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	

B型	のべ人数	177	169	177	195	138	181	196	153	162	165	151	177	2041
----	------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	------

(2)利用者状況

年齢分布（2026年3月末）

	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～	合計
男性	1	7	6	5	2	2	0	23
女性	0	5	4	4	5	3	0	21

平均年齢

男性平均	37.8
女性平均	44.1

障害支援区分（2026年3月末）

区分	なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
人数	1	0	0	6	11	15	11

区分なし：1 生活介護平均支援区分：4.9 就労継続支援B型平均支援区分：3.3

障害等級別状況（2026年3月末）

区分	A1	A2	B1	B2
人数	17	14	11	2

送迎サービス実績

延利用件数	13,206人
-------	---------

3. 活動内容

様々なメニューを提供し利用者が自分にあった作業・活動を選び、決定できるよう努めた。作業、工賃確保の為、イベントへ参加し自主製品を販売した。クッキーの個別販売など継続的に行い、売り上げの確保を図った。また、作業単価の高い国分寺跡の除草作業を受注し工賃確保に努めた。

行事では一泊旅行の実施を見合わせた。事業所内で季節のイベントの実施、また土曜の休日開所ではカラオケやアニメ鑑賞などのレクリエーションや実施した。日々の活動の中では利用者のリクエストに応じ、楽しみとなるプログラムを提供した。

(1)受託作業

9月よりロマンスカーヘッドレスト作業を受注。ダンボール、チラシ折り、エコキャップ、水道メーターの解体、タオルの配送、市内国分寺跡除草、綾瀬浄水場除草、東名高速道路（ネクスコ中日本高速道路）の高架下除草など。

(2)自主製品・活動

食品加工、七宝画製作、クラフト、レクの日、ダンスの日、運動プログラム、カラオケの日、太鼓の日。

(3)イベント

季節の行事、職員販売によるバザーの実施。日帰り外出。

(4) 地域との連携等

施設内での自主製品やクッキー販売活動、食品加工品の市や共同受注窓口、地域団体等からの受注、見学者の受入れなど地域との関わりを図った。地域との交流では今年度から星谷会地域貢献事業として開催した「えびなこの街でくらそう」に参加した。利用者は自由参加とした。地域でのイベントやボランティアフェスタ、仲間づくり交流会、メーデーバザーなどに参加した。

4. 作業会計

昨年度に続き工賃の高い国分寺跡除草作業を受注し工賃確保につなげた。また、食品加工では市、海老名市共同受注窓口からの催事用ギフトの注文やロータリークラブ、お歳暮、お中元ギフト等の注文販売や事業所での販売も売り上げ確保につながった。受注作業ではタオルの配達が安定して収入確保につながっている。タオル作業では会社が24年度末で倒産したが、ロマンスカー作業を始めたことで収入の確保につながった。

収入 (単位 円)

S Kパック	17,826 円	木の実色付け作業	9,700 円
A S U	47,250 円	手芸	15,170 円
ロマンスカー作業	48,131 円	松ぼっくりツリー	2,700 円
たすけ愛ゆずり愛	250,800 円	正月フラワーアレンジメント	47,500 円
除草作業 (綾瀬浄水場)	54,260 円	バザー売上	69,344 円
除草作業 (国分寺跡)	523,198 円	農福連携	3,600 円
水道メーター	15,000 円	ことこと屋。	801,900 円
		前年度繰越金	21 円
合計	1,906,400 円		

支出 (単位 円)

材料費	354,416 円	利用者賞与	851,513 円
利用者給与	697,700 円	金種指定手数料	2,750 円
合計	1,906,379 円		

収入 (単位 円)	支出	次年度繰越	
1,906,400 円	1,906,379 円	21 円	

<備考>

□全体 (生活介護・就労継続支援B型) : 2,868 円/月 □就労継続支援B型 : 3,138/月

5. 健康管理

看護師は月2回出勤。月1回の体重測定、日々の健康観察、年4回の嘱託医検診の他、歯科検診、利用契約者を対象とした健康診断をそれぞれ年1回実施。嘱託医、看護師より健康状態や病気の予防等について助言を受けながら、必要に応じ適宜ご家庭や関係機関と連

絡をとり健康管理に努めた。日中活動時においては検温、服薬の支援、状況に応じ通院付き添いサービスを提供した。嘱託医による希望者を対象としたインフルエンザの予防接種を行った。

6. 防災

「地震」「火災」「風水害」を想定した避難訓練を年5回実施。災害時の役割分担、動きなどの確認、利用者の状態に応じた避難方法を検討し緊急時に適切に対応できるよう努めた。消防設備については年2回の法定点検を実施し消防署に報告。大規模災害に備え事業所BCP計画を策定した。

7. 職員研修

星谷会主催の研修に参加、県央東地区施設長会の新人研修に参加、刈払機取扱作業安全衛生教育を受講し、除草作業で使用する刈払機を安全に使用できるようにした。また、神奈川県主体の意思決定支援ガイドライン研修を受講し、事業所内での意思決定支援への取り組みに繋がるようにした。

支援上の課題については複数ケース担当者制を継続しケース検討、毎日の職員ミーティング等で課題の共有化を図り適宜対応できるよう努めた。

8. ご家族との連携

日々の連絡ノートや電話、送迎時等で利用者の様子をお伝えし、またご家庭などの様子を伺い連携を図った。23年度末での家族会解散に伴い、事業所主催の懇談会を年に2回開催した。事業所からの報告や、ご家族との意見交換の場とした。

9. ボランティアの受け入れ状況

忘年会ではオンブズパーソンから紹介をされたトロンボーン奏者のボランティアに来ていただき、演奏会を開催した。

10. 今後の課題

- (1) 自己決定、選択支援への取り組み
- (2) 大規模災害への対応。
- (3) 食品加工の再編見直し
- (4) 事業所内の環境整備

2025 年度海老名市障害者第二デイサービスセンター事業報告 (かっぱ堂)

1. 重点課題の取り組み状況

(1) 個別支援の充実

(障害特性、年齢に応じたサービスの提供/一人ひとりが主役となるイベントの実施など)

- ・利用者の障害の特性に応じ、個別のプログラム、環境を提供した。課題となる行動について変化が見られた。
- ・利用者自治会等で希望を伺い、行事を企画し実施した。忘年会では紅白歌合戦を実施、各自の歌う歌に合わせ衣装を作り、着用し披露した。またダンスの練習をし披露した。利用者から「またやりたい」と感想があった。
- ・精神障害の理解を深め、支援に活かせるよう web 研修を使用した事業所内研修について検討を始めた。

(2) 安心・安全・楽しみとなる過ごし場の提供

(リスク箇所のチェックと環境整備/個に合った過ごし場の検討等)

- ・環境整備の係を配置し定期的に施設内をチェックし改善箇所をスタッフで共有し改善した。
- ・個別の特性に応じ、パーテーションを使用し活動・作業場面で個別の空間等確保ができるよう整えた。高齢の利用者の歩行時の移動導線や過ごし場の場所、移動時の支援方法等について検討しリスク軽減に取り組んだ、
- ・施設の環境整備（修繕）については、破損していた壁面を 2024 年度に続き修繕し完了した。利用者の行動を配慮し取り外していた作業室等出入口ドアについて破損箇所を修繕し、取り付けをした。

(3) ものづくりと地域とのつながり

(創作活動、農産物等育成・販売等を通じた地域との関わり)

- ・絵画制作やイベントを通じたものづくりの活動を提供した。絵画制作では作品展に応募し入賞者もいた。
- ・ショップ展開に向け室内を整備した。ショップを使用した作品展の実施はできなかった。
- ・サツマイモの栽培量、種類を増やした。収穫量は前年度より増えた。地域に向け焼き芋の販売を行い定期的に購入される方もいた。品種ごとに「干し芋」を作り試作し商品開発をすすめた。
- ・除草後の雑草を使用し、堆肥作りを行ったが地域への還元はできなかった。管理の方法等改善し継続していきたい。

(4) 意思決定支援

(利用者の個性に合わせたコミュニケーションの方法等について検討)

- ・日々の生活場面、面談、自治会活動等通し利用者の意思の確認を行った。障害特性に応じ、イラストやカード、タブレット等の機器も使いコミュニケーションが円滑に行えるように取り組んだ。

(5) サービス向上・人材の育成

(職員定型業務の見直、改善/事業所に合った研修の検討/主体的な取り組み)

- ・WEBを活用した事業所研修を実施した。また事業所に合った研修内容の検討を行なった。事業所内で定期的に研修ができるよう研修内容の検討等取り組みを継続したい。
- ・サービス提供後の分担などスタッフの定型業務等について会議などで確認し改善を図った。
- ・職員個々が考えるサービス提供時に取り組みたいこと等を聞き取り会議などで共有し意見交換をした。イベントや作業の展開など主体的に取り組みモチベーションにつながるよう取り組んだ。

2. 利用状況

2025年4月座間支援学校高等部卒業生1名が就労継続支援B型で契約。利用契約者40名でスタートした。2025年12月に1名、1月に1名の生活介護利用者が生活の場の移行の為、利用契約終了となり2026年3月末の利用契約者数は38名であった。

(1) 月別利用者状況 開所日 245日 (土曜余暇・休日開所日含む)

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
生活介護	在籍者数	25	25	25	25	25	25	25	25	25	24	23	23	
	のべ人数	390	406	407	436	314	393	430	349	378	351	326	383	4563
就労継続支援B型	在籍者数	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	
	のべ人数	194	186	190	204	147	202	214	176	194	187	174	196	2264

(2) 利用者状況

年齢分布 (2026年3月末)

	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～	合計
男性	1	7	5	3	5	1	0	22
女性	0	1	0	3	7	3	2	16

平均年齢 (2026年3月末)

男性平均	37.5
女性平均	56.8

障害支援区分 (2026年3月末)

区分	なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
人数	2	0	3	4	12	11	6

障害等級別状況 (2026年3月末) ※重複あり

区分	A1	A2	B1	B2	身障 1級	精神 1級	精神 2級
人数	4	13	13	2	1	1	6

(3) 送迎サービス実績

延利用件数	10237	内訳：生活介護：7481/就労継続支援B：2756
-------	-------	---------------------------

3. 支援内容

受注作業（タオルの検品、ボールペンの組み立て、チラシ折等）・農園芸・散歩・室内運動プログラム（ダンス・ストレッチ・フラダンス）・水彩画・手芸・カラオケ・ゲーム・モルックなどの室内レク、個別の買い物活動を提供した。また講師によるドラムサークルを2か月に1回、音楽ボランティアによる活動なども行なった。利用者が自ら選び、決定できるよういろいろな作業、活動を提供した。利用者一人一人が主役となるよう忘年会やかっぱ祭りなどの行事も実施した。作業種の拡大の為、受注開拓をした。自主製品作業では地域に向け焼き芋の販売や海老名市民祭り等での缶バッジ作り体験など行い工賃確保を図った。

4. 作業会計

長らく受託していた1社の倒産もあり作業種の拡大、工賃確保の為に新規受注開拓行い、2社から継続的に受託した。また、次年度に向け3月に企業訪問し新規作業の検討をした。自主製品販売では地域に向け焼き芋の販売を行った。海老名市共同受注窓口の紹介で昨年度受託できた東名高速道路の除草作業が2025年度は市内の他事業所が受託の為、減収の大きな要因となった。

収入

単位：円

ASU	34600	野菜販売	117802
ワープル	28600	野菜販売(スイカ)	4000
プウルヴー	47322	メーデーバザー	66100
手芸	10800	綾瀬浄水場除草作業	54260
缶バッジ	19500	国分寺・尼寺除草作業	523198
カレンダー	66400	カレンダー売り上げ	20000
海老名市民祭り販売	37350	えびなこの街で暮らそう	141940
ドリンク販売	284950	繰越金（前年度）	19
焼き芋	29850	利息	368
		合計	1487059

支出

単位：円

材料費（給与）	278981	利用者上期賞与	83921
利用者給与	458400	利用者下期賞与	659136
		銀行手数	6600
		合計	1487038

単位：円

次年度繰越金	21
--------	----

備考：平均工賃 3601 円/月：1 日利用者数平均で算出（就労 B 型：9.2 人/生活介護 18.6 人/全体：27.8 人）

5. 健康管理・衛生管理

- ・日々の連絡ノートを使ったやり取り等、家庭と連携し利用者の健康状態を把握し、管理や維持に努めた。利用者の状況に応じ通院同行し、医療機関への情報の提供など行った。出勤時には健康観察、検温、個別に血圧測定を実施した。
- ・6 月に利用者契約者を対象に健康診断（相模台健診クリニック）、10 月に希望者によるイ

ンフルエンザ予防接種（さがみ野レディースクリニック/原田医師）、2月に歯科検診（田辺歯科医院）を実施した。

- ・毎月2回看護師巡回による体重・血圧測定、健康相談を実施しました。
- ・嘱託医検診（杉山メンタルクリニック/杉山医師）を5月、8月、11月、2月の年4回実施した。
- ・手洗い、消毒、換気等日々の感染症対策、感染症研修を実施し感染症の拡大防止に努めました。

6. 防 災

避難訓練（地震・火災・風水害）、防犯訓練を事業所で行った。発電機、防災頭巾、災害時物品運搬用のリヤカー等、備蓄品を補充した。委託業者による消防機器の法定点検(2回/年)を行った。

7. 職員研修

星谷会主催の研修、感染症、人権研修を実施した。毎月の職員会議、毎日の職員ミーティングで利用者の状況を確認し支援課題などについて情報共有を図り適宜対応できるよう努めた。WEBを利用した研修を行った。

8. ご家族との連携

日々、連絡ノートや電話、送迎時等で利用者の様子をお伝えし、ご家庭などの様子を伺い連携を図った。家族会にて事業所の様子やお伝えしご要望等伺った。

9. ボランティアの受け入れ状況

音楽ボランティアを3名受け入れか活動を提供した。畑のボランティアを募集したが応募はなかった。

10. 課題

- (1)障害特性、年齢等に応じたプログラム、環境の提供を行い個別の支援を充実する。
- (2)地域ニーズに応じた利用者受け入れを検討する。
- (3)ものづくりを通し地域とのつながりを図る。
- (4)サービス向上の為、人材育成の取り組みを図る。

2025年度 海老名市障害者支援センターあきば事業報告

(指定管理による委託運営)

1. 重点目標の取り組み状況

(1) 利用者主体の支援の充実

計画作成時の聞き取りや活動選択時の支援の中で意向にあった支援を提供できるよう支援した。また、利用者自治会を再開し毎月定期的に開催することで意見が反映できるように配慮した。来年度活動班の再編を予定していることを説明し、より意向にあった活動班再編の準備を始めている。

(2) 外部専門職との連携

利用者各々の障害特性を理解して支援する為、自閉症支援専門機関（横須賀たんぽぽの郷わたげ）の職員によるスーパーバイズを年2回（6月・2月）実施した。スギナーシングケアと訪問看護委託契約を結び週1回理学療法士の派遣を受け機能維持活動や体勢等についてのアドバイスを受けている。

(3) 虐待防止と権利擁護の取り組み

あおぞらプラン、星谷会行動指針を定期的に読み合わせする共に人権チェックリストの記入、人権研修の実施、虐待防止委員会、身体拘束適正化委員会を開催し定期的な検証をして虐待防止、権利擁護に努めた。2月に虐待防止研修、3月に身体拘束等の適正化に関する動画視聴をしている

(4) イベントの充実

マンスリーイベントの継続をしている。（そば作り体験、食品サンプル、大道芸等）また、ダンス講師と契約し月1度のダンス教室を開催している。全体イベントであったクリスマス会を班ごとの開催にして使用者が参加しやすい環境を整えた。日帰り旅行については14コースに分かれ実施している。12月に上今泉自治会と合同でフリーマーケットを実施し地域交流に努めた。

(5) 介護ロボットやICT機器等の導入

移乗用リフトのデモ機を4台レンタルし移動式のリフトを短期入所に導入している。利用者の出退勤や送迎の乗車シフトの情報処理がうまくいかないことから管理ソフトの作成を業者と始めている

2. 利用状況

(1) 月別利用者状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
生活介護	在籍者数	53	53	53	52	52	53	53	53	53	53	54	
	のべ人数	837	790	874	928	653	817	909	739	785	753	738	9658
就労継続支援B型	在籍者数	18	18	18	18	18	18	18	19	19	19	19	
	のべ人数	321	312	319	337	236	310	340	265	303	290	280	3631

年間平均利用率：生活介護 67% 就 B72%（定員）

(2) 短期入所（宿泊）利用状況

契約利用者数	年間のべ宿泊日数
10 I 名【新規契約者+6 名】【GH 入居等-5 名】	1325

(3) 日中一時利用状況

契約利用者数	年間利用のべ日数	利用時間数
46 人	576 日	1283 時間

(4) 利用者状況（2025 年度末現在）生活介護 54 名、就労継続支援 B 型 19 名

年齢分布

	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～	合計
男性	0	11	14	13	5	0	43
女性	1	8	6	6	5	3	29

平均年齢

男性平均	38.6
女性平均	41.8

障害支援区分

区分	区分なし	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	平均
就 B	3	1	4	10	0	1	3.3
生活介護		1	3	16	18	15	4.88

障害等級別状況

療育手帳

等級	A 1	A 2	B 1	B 2
人数	31	17	8	5

身体障害者手帳

等級	1	2	3	4	5	6
人数	15	5	1	0	0	0

精神保健福祉手帳

等級	1	2	3
人数	0	1	0

送迎サービス実績

延利用件数	18,709 人	前年度+740 人
-------	----------	-----------

3 活動内容

マンスリーイベントで外部講師を招いて行事を開催している。（大道芸、食品サンプル作りなど）また、食事に関するイベントを再開しそば作りやレトルトカレーの食べ比べなどを開催し献立以外の食事の提供を楽しむ機会を提供した。また、日帰り外出も 14 コースで開催している。受注活動では、ダンボールの組仕切り、ロマンスカーヘットカバー検品、市内国分寺跡除草、綾瀬浄水場除草、DVD・CD の仕分け作業、アラミド繊維ほぐしの作業を行なった。また、ノウフク連携で農家から種まき、収穫などの作業をいただいている。それ以外の活動では手芸、農園芸、散歩、ウォーキング、カラオケ、アート、スヌーズレン、入浴サービス、納品・引き取り等を提供した。また、季節行事としてハロウィンイベント、忘年会、二十歳を祝う会を実施した。

4. 作業会計（2025 年度分）

収入の部

受託先	収入	その他	収入
-----	----	-----	----

小師紙工	¥176,931	手芸	¥72,425
ファブリック		農福	¥7,500
都市環境サービス	¥140,579	パソコン受注	¥177,076
ジースカイ		T シャツ	¥68,548
アクアクレイズ・モノマップジェー ピー	¥156,754	カフェはみんぐ	¥2,302,550
川端商店	¥13,292	賞与分	¥1,198,206
アラミド椿作業所	¥495	銀行利子	¥857
空き缶	¥82,430	前期繰り越し分	¥40
プウルヴー	¥52,622		
農園芸	¥45,420		
収入合計	¥4,495,725		

支出の部

給与	¥1,917,900	材料費	¥ 1,337,476
賞与	¥ 1,156,516	賞与材料費	¥ 41,690
積立返金	¥ 42,104		
支出合計	¥ 4,495,686		

総収入 4 4 9 5 7 2 5 — 総支出 4 4 9 5 6 8 6 = 3 9 次年度繰り越し 3 9 円

利用者平均工賃支給額

2,433 円／月【生活介護】（前年度-132 円）

7,512 円／月【就労継続支援 B 型】（前年度+2,003 円）

5. 給 食

給食は業務委託により提供している、利用者の食事形態等については見直しが必要な際には業者に依頼し対応した。毎月 1 回のセレクトメニューを実施した。

給食委員会を 6 月に開催し、利用者や職員の要望を伝え改善を図った。

6. 健康管理

看護師により 2 か月に 1 回体重測定及び血圧測定を実施。年 4 回の嘱託医検診の他、歯科検診、健康診断、インフルエンザ予防接種をそれぞれ年 1 回実施した。施設内の集団感染はなかった。

7. 防 災

「火災」を想定した避難訓練を 2 回行い、水害を想定した訓練を 1 回実施している。

8. 地域との連携

カフェ“はみんぐ”での飲食販売、市内図書館の本等の貸し出し・返却の取次業務、海老名市農政課主催の野菜販売を継続して実施する中、地域の方々との交流を図った。

土曜営業は毎月 1 回実施した。今年度は 1 2 月に上今泉 6 丁目自治会と合同でフリーマーケットを開催し、その後も交流が続いている。

2025年度 グループホーム事業報告

(みずき しおん とんぼ かぶとむし はなきりん てんとうむし ほたる)

1. 重点目標

(1) 安定的なグループホーム運営

グループホーム世話人は、福祉未経験者の応募が殆どで、求人が集まらない課題が見受けられた。世話人の福祉理解を深め、安定的な支援に繋がる様に、丁寧な働きかけをおこない、研修動画を使用した勉強機会を設けるなどを心がけた。人員配置上の課題を解決しながら、世話人の質の向上につながる様に努めた。

(2) 利用者ひとりひとりのニーズ、特性に合わせた支援について。

個別支援計画の読み合わせをおこない、利用者ひとりひとりのニーズを確認しながら、世話人が、支援の理解を深められる様に、情報共有と説明をおこなった。

(3) 利用者の健康状態、加齢に伴う暮らしの変化について

加齢などに伴う、健康状態の確認や、機能低下について、安心して暮らせる様に取り組みをおこなった。関係者会議を実施し、変化に合わせた暮らしについて検討をおこなった。ひとりひとりニーズや状態に合わせた暮らしについて関係機関と協力をおこなった。

2. 人権意識

「法人職員行動指針・あおぞらプラン」を常勤会議で定期的に確認した。ホーム会議で世話人に丁寧な説明を継続的に実施し、研修動画を利用した、人権に関わる理解を深めた。

3. 管理・運営について

(1) 個別支援計画及びモニタリング等の重要書類の作成について、年間計画表、ドロップボックスを活用し、作成時期を遵守し、内容の検討・確認をおこなった。

また、毎月のホーム常勤会議で、全事業所の利用者状況の確認をおこなった。

(2) 土日閉所されているホームの全日の稼働の実施について、利用者が帰宅される事が多い事から、休日利用頂ける様に、利用の勧めを丁寧におこなった。人員配置の課題は、継続して積極的な取り組みをおこなう。

4. 感染病対策

手洗い・うがいなど基本的な感染予防に努め、継続的な対策をおこなった。グループホーム関係者で協力をおこないながら、感染予防に努めた。

5. 防 災

(1) 年間計画に沿ったグループホーム防災訓練を実施した。

(2) 自然災害・感染症 BCP について確認し、必要な刷新をおこなった。

(3) 防災機器については定期点検を外部業者により実施した。

(4) 防災備品及び非常食について準備し、適切な管理を行った。

6. 余暇の充実

(1) 余暇の過ごし方として、ガイドヘルパーなどのサービスの活用を勧めた。

(2) 夏季、冬季休暇など、各ホームで行事企画を実施した。

7. 健康管理

(1) 定期的な健康診断や通院の支援を行った。

- (2) 服薬管理をはじめ、家庭や日中の事業所、主治医との情報交換を行った。
- (3) 定期的に各ホームに看護師の巡回訪問を入れ、健康保持の助言や指導を受ける機会を設けた。

8. 職員研修

法人の研修委員会が計画する研修や外部研修への参加の他、研修動画を活用した勉強会を実施した。ホーム会議を活用した世話人への研修を実施した。

9. 地域との関わり

2025 年度より義務化される「地域連携推進会議」を年 1 回実施する。併せて地域連携推進員のグループホーム訪問を実施する。

- (1) 家族との懇親会をおこなった。
- (2) 利用者と地域との関係作りとして、地域連携推進会議を実施した。
- (3) 地域の人への施設等や利用者に関する理解として、見学の受け入れ等をおこなった。
- (4) 施設等やサービスの透明性・質の確保をおこなった。
- (5) 利用者の権利擁護の話し合い、人権推進委員会で検討された内容を中心に、ホームでの意見交換や情報共有をおこなった。

利用者の状況

入居利用者及び職員配置

住居の名称		定員	入居者	世 話 人 生活支援員	日中活動の場
みずき	みずき	4 人	4 人 (女)	5 人	デイ
	しおん	4 人・体験 1 人	4 人 (女)	8 人	民間会社、デイ
	とんぼ	5 人	5 人 (男)	7 人	デイ
	かぶとむし	9 人	9 人 (男)	7 人	就継 B、民間会社、デイ
はなきりん	はなきりん	8 人	7 人 (女)	5 人	民間会社、デイ
	てんとうむし	9 人	9 人 (男)	7 人	学園、デイ
	ほたる	7 人	7 人 (男)	6 人	民間会社、デイ

障害支援区分

	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6
みずき				1	1	2
しおん		1			2	1
とんぼ				2	2	1
かぶとむし			4	2	2	1
はなきりん			1	3	2	1
てんとうむし			1	4	2	2
ほたる		1	3	3		

利用実績（実利用日数）

居住の名称	年間利用日	満 床	年間利用率
みずき	1,268	1,460 日	86.8%
しおん	1,305	1,825 日	71.5%
とんぼ	1,277	1,825 日	69.9%
はなきりん	2,415	2,920 日	82.7%
てんとうむし	2,583	3,285 日	78.6%
かぶとむし	3,023	3,285 日	92.0%
ほたる	2,153	2,555 日	84.2%
合計	14,024	17,155 日	81.7%

2025年度 ホームいこい事業報告

昨年度、ホームいずみ利用者1名が8月末付けで退所をしたが、その後の欠員補充が出来なかった。ホームいこい、ホームひかりは定員割れすることなく安定して運営が出来た。

2026年2月26日に法人入所施設とグループホーム合同の「地域連携推進会議」を開催した。

1. 重点課題に対する取り組みと評価

- ① 可能な限り、話し合いを基本としてご本人が希望する生活を支援します。
→次年度の個別支援計画書更新に伴い、サビ管、リーダーが各ホーム利用者と個別に面談を行い、ホームでの生活に関する希望や思いを汲み取り、次年度の個別支援計画に反映させた。
- ② 個別性を尊重するとともに障害特性を理解する事に努めます。
→毎月のホーム会議にて、利用者個々の状況を職員全員で確認を行い、支援方法について話し合い、障害特性の理解を深めるようにした。
- ③ 事故のない、安心できる場所、そして快適な場所を提供します。
→生活環境への不具合や事故等があった場合、ホーム会議や日々のサビ管やリーダーからの報告等で把握し、すぐに対応を行った。

2. 支援内容

- ① 個別支援計画に沿って支援します。
→毎月のホーム会議にて利用者の生活状況を確認するモニタリングを実施し、計画に沿った支援を実施した。また、利用者個別面談の内容を全職員で共有し、個々の望む生活について確認を行った。
- ② 健康に配慮し、本人のし好に沿った食事提供をします。
→毎日のバイタル測定・体重測定を実施。訪問看護ステーションの看護師巡回による隔週の健康チェックを実施した。

3. 健康管理

- ① 年1回の健康診断を行います。
→法人内通所事業所において健康診断を受診した。
- ② 看護師による日常的な健康管理を行い、必要に応じて適切な対応をします。
→毎月隔週で健康チェックを実施した。
- ④ 感染症対策を徹底し、予防に努めます。
→感染症BCP研修の実施、嘔吐物処理の訓練の実施を行い、日頃からの備えに関して学び、日々の感染症対策（うがい・手洗いの励行）を行い予防に努めた。

4. 職員研修

- ① 法人の規程に沿って採用時の研修及び虐待防止の研修を行います。
→2月に各ホーム会議にて虐待防止研修を実施した。（ひかり：2/10・いずみ：2/18・いこい：2/25）

② 年間の研修計画に沿って研修を行います。

月	研修内容	ひかり	いずみ	いこい
7月	感染症・自然災害BCP研修	9日	16日	23日
2月	虐待防止研修	10日	18日	25日

5. 会議及び委員会

① 管理者、サービス管理責任者及び世話人の会議を毎月1回行います。

→各ホームのリーダー職員とサビ管、管理者の会議も毎月実施した。

② 住居毎のスタッフにより会議を毎月1回行います。

→毎月のスタッフ会議を実施した。

③ 法人の会議、委員会に参加します。

→毎月開催される法人管理者会議へ管理者が参加をした。

→法人衛生委員会委員会へ管理者が参加をした。

6. 防災対策

① 法人の防災計画に沿って研修、訓練等を実施します。

→5/24 ホームいこい・ひかり避難訓練実施（水害想定）利用者10名・職員6名参加

→7/18 ホームいずみ避難訓練実施（火災想定）利用者3名・職員3名 計6名参加

→6/30 ホームいこい・ひかり避難訓練実施（火災想定）利用者10名・職員5名 計15名参加

→10/1 法人防災訓練へ参加（地震想定避難訓練・報告訓練）

→12/17 ホームいずみ避難訓練実施（火災想定）利用者1名・職員2名 計3名参加

→12/10 ホームいこい・ひかり避難訓練実施（火災想定）利用者8名・職員3名 計11名参加

② 防災機器については定期点検を外部業者により実施します。

→10/9 御幸防災設備が定期点検実施。

→3/16 御幸防災設備が定期点検実施。

③ 防災備品及び非常食について準備し、適切な管理を行います。

→海老名市地域防災拠点事業の補助金を活用し、「カセットコンロ」を3ホームに購入した。

7. 利用者の状況

入居利用者及び職員配置

住居の名称	定員	入居者	世話人 生活支援員	日中活動の場
いこい	5	5	9	生活介護
ひかり	5	4	8	生活介護・就労B型（外部y）
いずみ	4	3	8	生活介護・就労B型

障害支援区分

住居の名称	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
いこい				3名	2名	
ひかり			1名		3名	1名
いずみ					3名	

利用実績（実利用日数）

住居の名称	年間利用者数	年間利用率
いこい	1,461 日	80.0%
ひかり	1,664 日	91.1%
いずみ	969 日	88.4%

2025年度 生活支援センターステップ 事業報告

2025年4月より海老名市地域生活支援事業「移動支援」の報酬単価が上がった。しかし、「日中一時支援」の報酬単価は据え置きのままとなっている。

ステップでは、支援を担って頂く「登録ヘルパー」の確保に苦慮しており、支援の依頼があっても担い手の不足のため支援に繋がられないケースが増えて収入に大きく影響してしまった。

1. 重点課題に対する取り組みと評価

- ① 利用者の意思及び人格を尊重して、常に利用者の立場に立ったサービスの提供に努めるものとする。

→ヘルパー会議にて「権利擁護と虐待防止」についての研修を行い、利用者の立場に立ったサービス提供を促した。

- ② 地域との結び付きを重視し、市町村、他の障害福祉サービス事業者その他の保健医療サービス及び福祉サービスを提供する者との連携に努めるものとする。

→相談支援事業所からのモニタリング会議等に積極的に参加をして連携を行った。

→海老名市障がい福祉サービス合同事業所説明会に参加し、他事業所との連携を深めた。

2. 健康管理

- ① 感染症対策を徹底し、予防に努める。

→日中一時支援・移動支援等で外から事業所に帰ってきた際の感染症対策（うがい・手洗いの励行）を行い、予防に努めた。

3. 職員研修

- ① 法人の規程に沿って採用時の研修及び虐待防止の研修を行います。

→2月のヘルパー会議にて「権利擁護と虐待防止」の研修を実施した。

4. 防災対策

- ① 法人の防災計画に沿って研修、訓練等を実施します。

→10/1 法人防災訓練へ参加（地震想定避難訓練・報告訓練）

- ② 防災備品及び非常食について準備し、適切な管理を行います。

→海老名市地域防災拠点事業の補助金を活用し、防風カセットコンロを購入した。

5. 会議及び委員会

① 管理者、事務員、コーディネーターの会議を毎月 1 回行います。

→毎月、「事務管理会議」、「地域生活支援会議」を実施した。

② ヘルパー会議を年 3 回実施します。

→10/24・2/27 にわかば会館にてヘルパー会議を実施した。

③ 法人の会議、委員会に参加します。

→管理者が毎月の法人管理者会議に参加した。

→管理者が、法人衛生委員会に参加した。

6. 利用状況（実績）

【上期】

事業名	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
移動支援	111 件	109 件	133 件	125 件	102 件	116 件
日中一時	91 件	85 件	90 件	99 件	98 件	104 件
レスパイト	2 件	3 件	3 件	2 件	1 件	2 件
ステップサポート	36 件	48 件	77 件	51 件	29 件	40 件

【下期】

事業名	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
移動支援	136 件	138 件	113 件	133 件	137 件	128 件
日中一時	98 件	99 件	101 件	91 件	100 件	100 件
レスパイト	0 件	3 件	2 件	0 件	0 件	1 件
ステップサポート	51 件	38 件	24 件	29 件	32 件	31 件